

高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第47週[11月22日～11月28日]

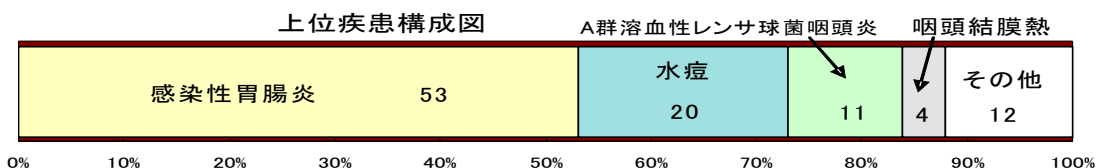
高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>
E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

県内情報

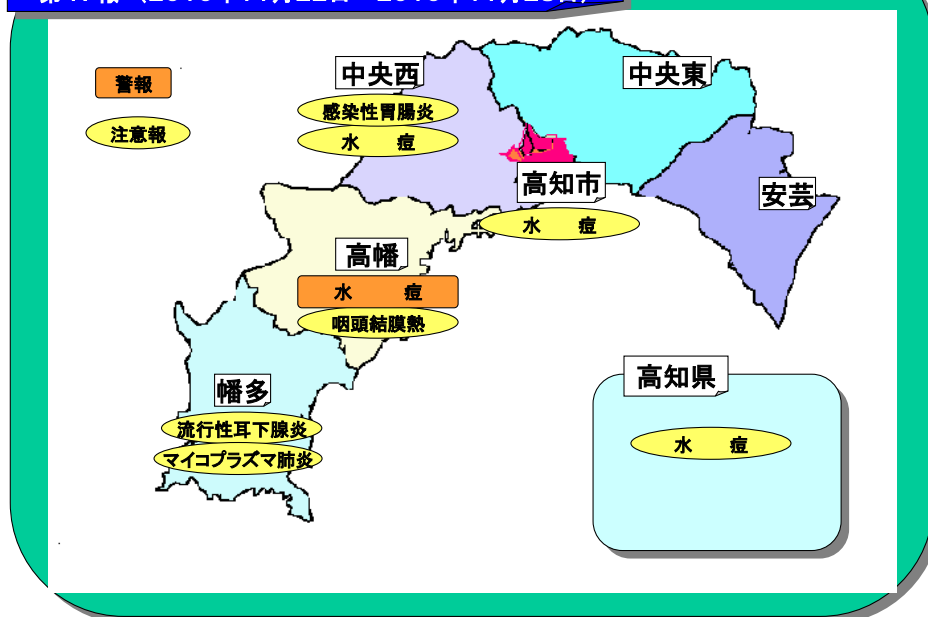
○ 患者情報総評

注意報発令疾患：水痘

- ・ 週の始めは雨が降ったが、その後は安定した天気となった。
- ・ 感染性胃腸炎（中央西：注意報）は安芸と幡多でやや減少したが、その他の地域では増加し、総数は引き続き増加した。
- ・ 水痘（高幡：警報，高知市：注意報→注意報，中央西：注意報）は中央西，高幡，幡多で増加し、総数は前週の約1.3倍増となった。
- ・ 咽頭結膜熱（高幡：注意報→注意報）は総数は引き続き減少したが、高幡では注意報値を超している。
- ・ 流行性耳下腺炎（幡多：注意報）は流行がみられていた高幡では減少したが、高知市と幡多で増加し、幡多では注意報値を超した。

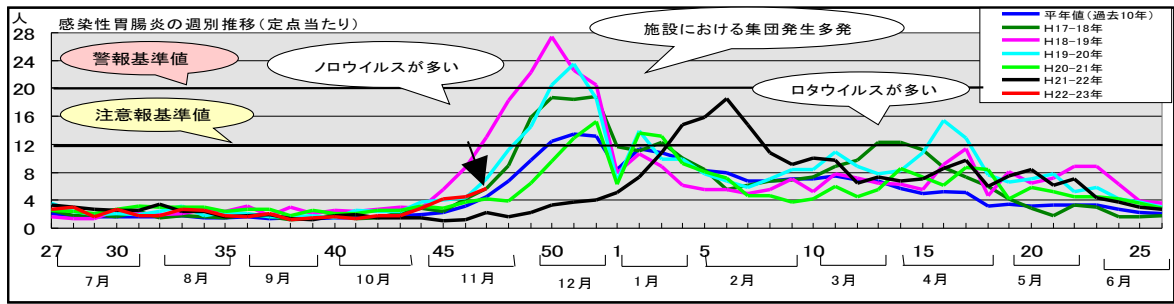


地域別感染症注意報・警報発生状況 第47報（2010年11月22日～2010年11月28日）



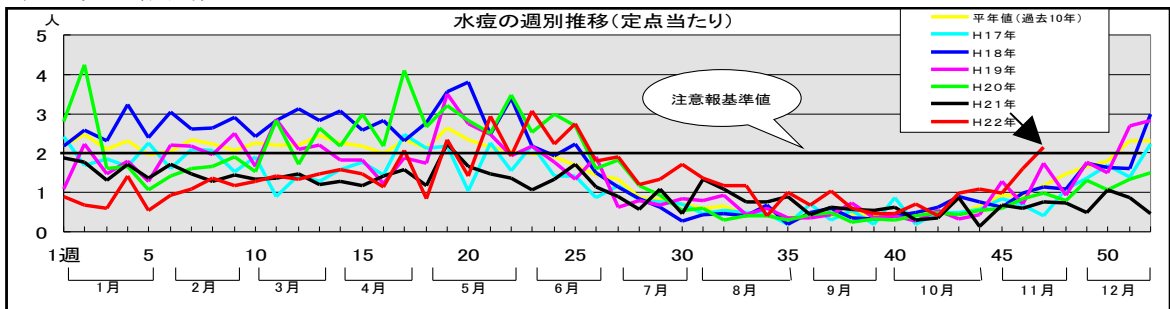
感染性胃腸炎：今週5.70（注意報値：12.00 警報値：20.00）

総数はさらに増加し、中央西では注意報値を超した。搬入された検体からはNorovirus GII が2件検出された。感染の予防には、食事前や帰宅時の流水・石けんによる手洗いの励行が重要である。



水痘：今週2.13 (注意報値：2.00 警報値：4.00)

総数はさらに増加し、注意報値を超した。過去10年間の同時期と比較すると、平成14年(定点当たり2.35)に次ぐ報告数となっている。



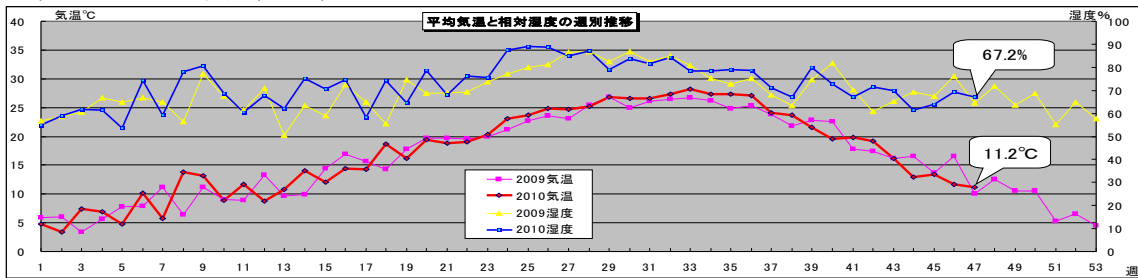
○ 検査情報

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス, 細菌の検出状況
46	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8歳 男	高知市	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-4
47	マイコプラズマ肺炎	9歳 男	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
47	感染性胃腸炎	1歳 男	高知市	Norovirus GII
47	感染症胃腸炎	1歳 男	高幡	Norovirus GII

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 1例 (74歳女) 《中央東》 (今年142例)

○ 高知県の平均気温と湿度 (週別)



○ 定点からの地域ホット情報

幡多：

- 《さたけ小児科》：ヘルペス性歯肉口内炎 1例 (0歳女)
- 《渭南病院小児科》：某保育園で頭ジラミ流行中
- 《松谷内科》：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 1例 (37歳女) は迅速キットで陽性

高幡：

- 《もりはた小児科》：水痘の流行が続く
- アデノウイルス感染の流行が続く (扁桃に白苔付着を認めない例が多い)

中央西：

- 《石黒小児科》：ヘルペス性歯肉口内炎 1例 (1歳女)
- 《くぼたこどもクリニック》：マイコプラズマ肺炎 1例 (5歳男)

高知市：

- 《福井小児科・内科・循環器科》：アデノウイルス陽性 3例 (3,4歳男女)

《けら小児科・アレルギー科》：アデノウイルス陽性 2例（0歳男，2歳女）

中央東：

《あけぼの小児クリニック》：アデノウイルス咽頭炎 2例（2，3歳男）

マイコプラズマ肺炎 1例（6歳男）

《野市中央病院小児科》：帯状疱疹 1例（2歳女）

《早明浦病院小児科》：水痘が某保育園で継続増加中

全国情報第45週（11/8～11/14）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核298例

3類感染症：コレラ1例、細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症48例（有症者24例、うちHUS なし）、腸チフス1例

4類感染症：A型肝炎3例、エキノコックス症1例、つつが虫病16例、デング熱1例、日本紅斑熱1例、ライム病1例、レジオネラ症14例

5類感染症：アメーバ赤痢11例、ウイルス性肝炎4例（B型2例、C型2例）、急性脳炎3例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、後天性免疫不全症候群19例（AIDS 4例、無症候15例）、ジアルジア症1例、梅毒5例、麻しん3例

報告遅れ：細菌性赤痢1例、デング熱3例、日本紅斑熱2例、急性脳炎2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、破傷風1例、風しん1例

◆**感染性胃腸炎**

感染性胃腸炎は多種多様な原因によるものを包含する症候群名である。全国約3,000カ所の小児科定点からの患者発生報告数が増加するのは冬季であり、その大半はノロウイルスやロタウイルス等のウイルス感染を原因とするものであると推測されている。また、患者発生のピークは例年12月中となることが多く、同時期の感染性胃腸炎の、特に集団発生例の原因の多くはノロウイルスによるものであると考えられてきた。

ノロウイルスの感染経路としては、以前は食中毒としての経口感染がよく知られていたが、患者や無症状病原体保有者との直接もしくは間接的接触による接触感染や、患者の嘔吐物や下痢便を介した飛沫感染等のヒト→ヒト感染があり、その感染力は非常に強い。乳幼児の集団生活施設である保育所や幼稚園、小児の集団生活施設である小学校等においては、これら接触感染や飛沫感染等により、集団発生が繰り返されてきているものと推察される。また、2006年12月の東京都豊島区のホテルにおいて発生した集団感染事例のように、「吐物や下痢便の処理が適切に行われなかったために残存したウイルスを含む小粒子が、掃除などの物理的刺激によって舞い上がり、それを間近とは限らない場所で吸引し、経食道的に嚥下して消化管へ至る感染経路」である「塵埃感染」が発生する場合がある（感染症情報センターホームページ「ノロウイルスの感染経路」：<http://idsc.nih.go.jp/disease/norovirus/0702keiro.html> 参照）。ノロウイルスの感染予防には、流水・石けんによる手洗いの励行と吐物や下痢便の適切な処理がきわめて重要である（感染症情報センターホームページ「家庭等一般の方々へ」：<http://idsc.nih.go.jp/disease/norovirus/taio-a.html>、「医療従事者・施設スタッフ用」：<http://idsc.nih.go.jp/disease/norovirus/taio-b.html>参照）。

感染症発生動向調査によると、全国約3,000カ所の小児科定点からの感染性胃腸炎の2010年第45週の定点当たり報告数は7.70（報告数23,366）と、第42週以降増加が続いている。都道府県別では、大分県（30.22）、山形県（22.97）、新潟県（19.51）、山口県（17.51）、長崎県（15.27）、福岡県（14.46）、山梨県（11.79）、福井県（10.82）、三重県（10.11）の順となっている。第45週は佐賀県を除く46都道府県で前週の報告数よりも増加がみられており、特に大分県、新潟県、山口県、福岡県、山梨県、長崎県等では大きく増加した。殆どの学校や幼稚園等の小児の集団生活施設の夏季休暇が終了した直後の第36週から第45週までの定点当たり累積報告数は39.86（累積報告数120,354）であり、年齢群別では0～1歳26.4%、2～3歳21.7%、4～5歳16.7%、6～7歳10.1%の順であり、5歳以下で全報告数の60%前後を、7歳以下で70%以上を占めているのは例年と同様である。

感染性胃腸炎は、その報告数が11月に入ると急増し、12月中（第49～52週）にピークを迎えるという流行をほぼ殆どの年で繰り返してきた。第44～45週の定点当たり報告数の増加（2.39）は、2010年では第2～3週の増加に次ぐ大きな増加となっている。第45週は国内の大半の地域で報告数の増加がみられ、この傾向は今後も継続し、流行は更に拡大していく可能性が高いものと予想される。感染性胃腸炎の発生動向には今後とも注意深い観察が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(46週)	高知県(47週未累計) H22/1/4~H22/11/28
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ			5				5 (0.10)	5 (0.10)	1,684 (0.35)	2,592 (54.00)
	咽頭結膜熱			7	1	5		13 (0.43)	16 (0.53)	1,064 (0.35)	415 (13.83)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	7	14	2	3	7	35 (1.17)	23 (0.77)	4,910 (1.63)	987 (32.90)
	感染性胃腸炎	7	19	59	36	11	39	171 (5.70)	137 (4.57)	32,084 (10.64)	8,176 (272.53)
	水痘	1	10	31	7	11	4	64 (2.13)	48 (1.60)	4,205 (1.40)	1,859 (61.97)
	手足口病		3	1				4 (0.13)	2 (0.07)	893 (0.30)	3,232 (107.73)
	伝染性紅斑								1 (0.03)	1,030 (0.34)	232 (7.73)
	突発性発疹	1	2	1	1	1		6 (0.20)	8 (0.27)	1,655 (0.55)	576 (19.20)
	百日咳			1				1 (0.03)	4 (0.13)	82 (0.03)	76 (2.53)
	ヘルパンギーナ		1	1				2 (0.07)	5 (0.17)	169 (0.06)	1,033 (34.43)
	流行性耳下腺炎			3		1	6	10 (0.33)	13 (0.43)	3,484 (1.16)	259 (8.63)
	RSウイルス感染症		1	6	2	1		10 (0.33)	12 (0.40)	1,720 (0.57)	822 (27.40)
眼科	急性出血性結膜炎								0.00	13 (0.02)	2 (0.67)
	流行性角結膜炎								1 (0.33)	415 (0.61)	75 (25.00)
基幹	細菌性髄膜炎			1				1 (0.14)	1 (0.14)	13 (0.03)	13 (1.86)
	無菌性髄膜炎								1 (0.14)	10 (0.02)	19 (2.71)
	マイコプラズマ肺炎			1			1	2 (0.29)	3 (0.43)	327 (0.71)	89 (12.71)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									16 (0.03)	23 (3.29)
計 (小児科定点当たり人数)		11 (5.50)	43 (6.14)	131 (11.59)	49 (16.33)	33 (16.50)	57 (11.20)	324 (10.64)			
前週 (小児科定点当たり人数)		10 (5.00)	44 (6.23)	129 (11.10)	24 (8.00)	20 (10.00)	53 (10.53)		280 (9.07)	53,774	20,480 (642.90)

定点当たり

第47週

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(46週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ			0.31				0.10	0.10	0.35
	咽頭結膜熱			0.64	0.33	2.50		0.43	0.53	0.35
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	1.00	1.27	0.67	1.50	1.40	1.17	0.77	1.63
	感染性胃腸炎	3.50	2.71	5.36	12.00	5.50	7.80	5.70	4.57	10.64
	水痘	0.50	1.43	2.82	2.33	5.50	0.80	2.13	1.60	1.40
	手足口病		0.43	0.09				0.13	0.07	0.30
	伝染性紅斑								0.03	0.34
	突発性発疹	0.50	0.29	0.09	0.33	0.50		0.20	0.27	0.55
	百日咳			0.09				0.03	0.13	0.03
	ヘルパンギーナ		0.14	0.09				0.07	0.17	0.06
	流行性耳下腺炎			0.27		0.50	1.20	0.33	0.43	1.16
	RSウイルス感染症		0.14	0.55	0.67	0.50		0.33	0.40	0.57
眼科	急性出血性結膜炎									0.02
	流行性角結膜炎								0.33	0.61
基幹	細菌性髄膜炎			0.20				0.14	0.14	0.03
	無菌性髄膜炎								0.14	0.02
	マイコプラズマ肺炎			0.20			1.00	0.29	0.43	0.71
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.03
計 (小児科定点当たり人数)		5.50	6.14	11.59	16.33	16.50	11.20	10.64		
前週 (小児科定点当たり人数)		5.00	6.23	11.10	8.00	10.00	10.53		9.07	

2010年週報推移(定点当たり)

